

統計局ホームページを通じた統計教育の拡充に関する懇談会（第4回） 議事概要

- 1 日 時 平成22年3月29日（月） 15:00～17:00
- 2 場 所 総務省第二庁舎 7階中会議室
- 3 出席者 渡辺座長、小口委員、富永委員、中本委員、西仲委員、西村委員
総務省統計局：川崎統計局長、三上統計情報システム課長、
高田調査企画課調査官ほか
- 4 議 題 (1) 授業モデル案について
(2) 統計学習用補助教材について
(3) 統計学習サイト（教師向け）のイメージについて
(4) リニューアル後の統計学習サイトのPRについて
(5) その他
- 5 配付資料
資料1 各先生による授業モデル案について
資料2 統計学習用補助教材について
資料3 統計学習サイト（教師向け）コンテンツ構成（案）
資料4 リニューアル後の統計学習サイトのPRについて

6 議事の概要

- (1) 授業モデル案について、統計局から説明。

主な意見等

- 授業モデルについて、各授業モデルの上部に記載されている当該モデルの対象学年、科目、カテゴリー等を示している事項は、「【中1・数学】[資料の活用]」といったような統一的なフォーマットにしたほうがよい。事務局で平仄を整理して先生方に確認いただく。
- 構成員の作成した授業モデル案について、ホームページ掲載までに作成者による微修正があり得ることを前提に了承。

- (2) 「統計学習用補助教材」について、統計局から説明。

主な意見等

- 「統計をグラフにあらわそう」のヒストグラムのグラフについては、階級幅と度数で示される面積の大きさを表すことで棒グラフと違いが説明されるので、X軸の目盛表示など正確に表現して欲しい。また、グラフに使われる省略を表す波線(≈)について、座標軸だけでなく棒グラフ自体にも入れるべき。
- 「統計エピソード集～授業導入部で～」には、サンプリングの重要性を説明するエピソードとして、標本調査におけるサンプリングの仕方によっては、標本の偏り等が要因となって妥当な調査結果が得られなかったという例が追加できるとよい。よくあるのは、昔のアメリカ大統領選挙の話がある。
- 選挙の出口調査、花粉情報の出し方など、どのようにして結果を出しているのか民間企業からは事業ノウハウとして詳細は教えてもらえないものだが、基本的な考え方を示してもらえると有用であろう。

- 標本の大きさと標本誤差の関係について、学校において実際に生徒へ指導する場合は、学校のクラスや学年を対象とした小規模の母集団に対してサンプリングを行うことが考えられる。そのため、抽出率が高い場合における標本の大きさと標本誤差の関係についても解説してあるとよいのではないかと。数式が多少複雑になったとしても、教師であれば十分理解できる。
 - 他府省のキッズサイトにおいて有用なものがあることから、統計学習サイトのリンク集に同サイトへのリンクがあるとよい。また、統計局ホームページの中には、統計調査のご案内ページにマンガで解説したコーナーがあるので、学習サイトの「統計とは？」からリンクをはってみたいかどうか。
 - 統計学習用補助教材について了承。
- (3) 統計学習サイト（教師向け、子供向け）について、開発中の画面に基づき統計局から説明。

主な意見

- 「試験に出る統計」について、そのタイトルから、当該コンテンツが試験に出題されるといった利用者の誤解を生む可能性があるため、ネーミングの再検討が必要ではないかと。
 - 「あなたの地元が日本一！」では、各項目に付された短いコメントが、必ずしもデータから明確に導き出されるとは言い難いものもありそうなので、オープンするまでに精査が必要。
 - 「統計のない国は大騒ぎ」の各エピソードの掲載順番は、子どもたちの身近なテーマを扱ったものから順に表示しておくこと、当該コンテンツに対する子どもたちの関心が高まり、より閲覧されるようになるのではないかと。また、統計の有用性や統計を学ぶことの必要性・重要性を、より強く訴えてもよいのではないかと。
 - 統計学習サイトに登場するキャラクターについては、例えば、遊び好きのキャラクターであればゲームのコンテンツを紹介し、真面目なキャラクターが学んだり調べたりするコンテンツを紹介するなど、その性格に応じたおすすめコンテンツを紹介することで、子供たちの趣向に沿った閲覧を促し、効率的にサイトを閲覧できるようになるのではないかと。
- (4) 「リニューアル後の統計学習サイトのPR」について、統計局から説明。

主な意見

- 教科書はすでに内容が確定しているため、4月下旬から5月上旬に広報する場合は、これから内容を作成する教科書準拠のワーク等を扱う教材の会社に情報提供を行うことが効果的ではないかと。
- サイトのPRについて、夏休み前である2学期前と、授業で統計が扱われる3学期の準備を意識して11月頃の2つの時期に分けてPRすることが効果的ではないかと。

※ 文責：事務局（今後、修正される場合があります。）